

大阪大学総合学術博物館 第24回企画展

# 石濱純太郎展

なにわ町人学者の東洋学

JUNTARO ISHIHAMA

2023

6/3<sub>土</sub> → 7/29<sub>土</sub>

10:30～17:00 (入館は16:30まで)

日曜・祝日休館

大阪大学総合学術博物館  
待兼山修学館

入館  
無料

(阪急宝塚線 石橋阪大前駅から徒歩約10分。裏面地図参照)



大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 TEL.06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、  
開催日程・休館日変更になる場合があります。  
ご来館前に当館ホームページ最新情報をご確認ください。



〈主催〉大阪大学総合学術博物館、大阪大学大学院人文学研究科

〈協力〉大阪大学附属図書館、大阪大学外国語学部、大阪大学文学部、一般財団法人 懐徳堂記念会

なにわ町人学者の東洋学

# 石濱純太郎展

石濱純太郎(いしはまじゅんたろう、1888(明治21)~1968(昭和43)、関西大学名誉教授)は大阪が生んだ大正から昭和戦後期に活動した東洋学者です。自他ともに認める“町人学者”として、敦煌文献や未解読だった西夏文字、懐徳堂の富永仲基の学問を研究しました。膨大な研究資料のコレクションと彼のまわりに集う人々の輪「石濱サロン」は、生前から讃嘆されていました。また彼は大阪大学の前身校でもある大阪外国語学校・大阪外国語大学、(旧制)大阪高等学校で学び教え、さらに重建懐徳堂を活動の場とするなど、大阪大学とも縁が深い学者です。没後、蔵書などが大阪外国語大学に「石濱文庫」として入り、現在は大阪大学附属図書館に保管されていて整理、研究が進められています。



書斎での石濱純太郎

## ■展示構成

石濱純太郎が収集した資料から、漢字の変遷とアジアの文字・言語の多彩さ、また彼をとりまく学芸ネットワークについて、展示を通じてご紹介します。

第I部

石濱純太郎コレクションからみる東洋の文字

1) 漢字とその仲間のひろがり 2) アルファベットの東洋への旅

第II部

石濱純太郎をめぐる人々—学芸のネットワーク

展示替えについては、ホームページに情報を掲載します。



孫秋生等造像記拓本  
(龍門四品の一つ)



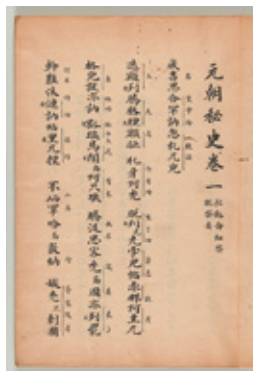
西夏文字拓本  
(重修護国寺感通塔碑)※部分



ジグンティ(竹温台)碑拓本



青旗報社カレンダー(チングスカン像)



『元朝秘史』



『静安学社通報』第一期

※いずれも大阪大学附属図書館所蔵。

## ■ミュージアムレクチャー

いずれも13:30~15:00 待兼山修学館 3Fセミナー室  
定員30名/先着順、開始30分前受付開始

6/3(土)

石濱シュレー(“石濱学派”)に  
集った東洋言語学者たち

長田俊樹(総合地球環境学研究所名誉教授)

6/10(土)

石濱文庫の調査と研究  
—展示の見どころ

堤一昭(大阪大学人文学研究科教授)

6/24(土)

石濱純太郎とネフスキー

生田美智子(大阪大学言語文化研究科名誉教授)

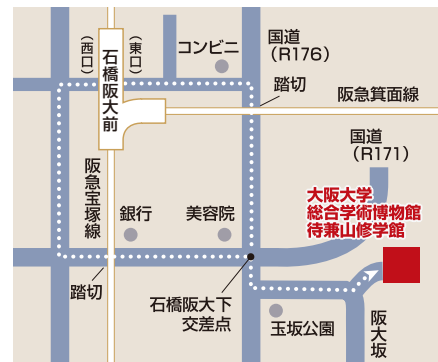
7/1(土)

葉種間屋石濱屋から町人学者、  
純太郎へ

石浜紅子(なにわの海の時空館 元館長、石濱純太郎ご令孫)

## 大阪大学総合学術博物館へのアクセス

- 阪急電鉄宝塚線「石橋阪大前駅」より徒歩約10分
- 大阪モノレール「柴原阪大前駅」より徒歩約20分



※公共の交通機関をご利用ください。  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入館時に手指消毒などをお願いする場合があります。また掲載内容に変更が生じる場合がございます。ホームページで最新情報をご確認ください。